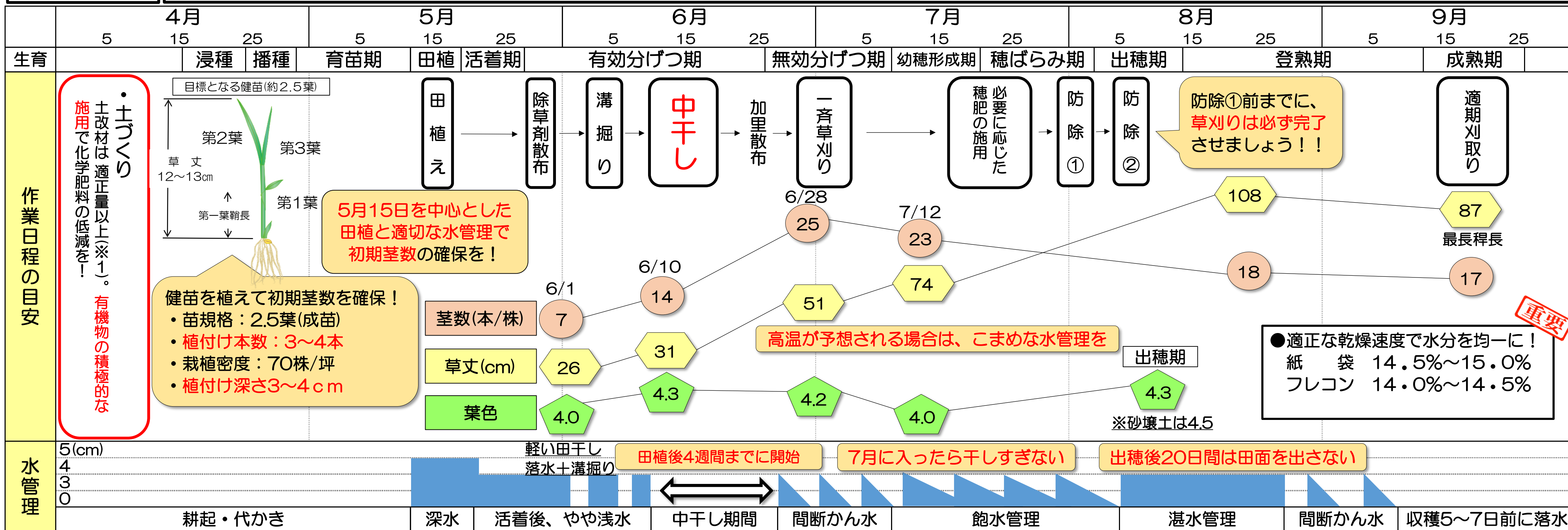


令和8年度 コシヒカリ栽培こよみ

みな穂農業協同組合
黒東地域農業技術者協議会

重点対策 ①土壌改良資材の継続的な施用 ②初期茎数の確保 ③生育に合わせた水管理 ④生育・気象状況に応じた穂肥施用 ⑤適期防除



土づくり資材の施用基準 (10aあたり) ※1

土壌改良資材	珪酸石灰 200kg
	シリカパンチF 120kg
	アサヒニューテツ 160kg
有機質資材	グリーンウェイブ2 60kg
	発酵ケイフン 75kg (春施用基準量)
	牛ふん堆肥 1t (春施用基準量)

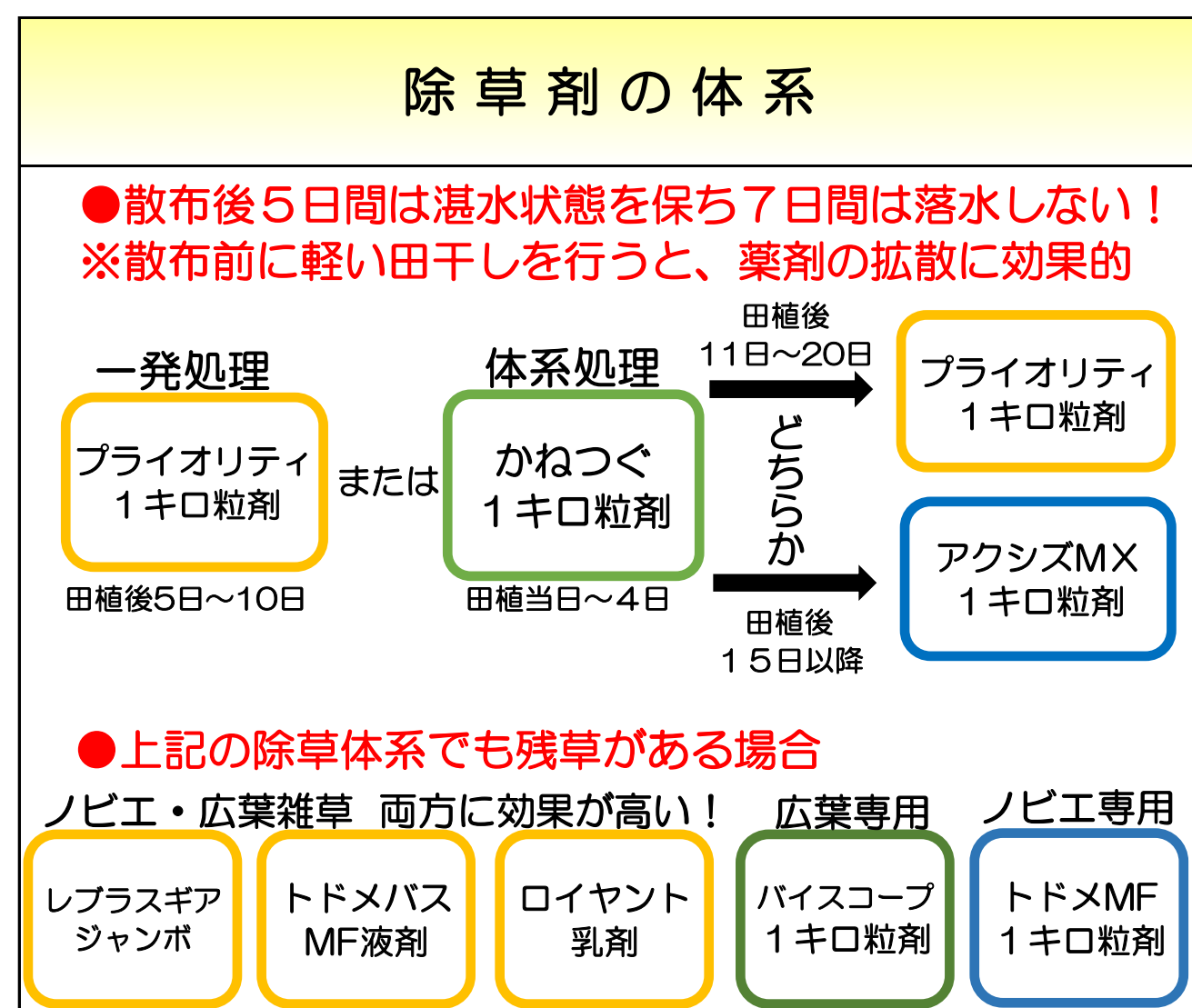
適正な基肥量の施用

一発肥料(側条施用)の場合
Jコートコシヒカリ1号または2号
38kg/10a

苗箱施薬 (使用量:50g/箱)
※密苗の場合の使用量:1kg/10a

田植前3日~当日に苗箱施用
(播種同時処理も可能)

ヨーバルプライムEV箱粒剤
適用病害虫: いもち病、紋枯病
イネドロオイムシ、ニカメイチュウ
除草剤との間違いに注意!



病虫害防除

2回防除で病虫害シャットアウト!

基本防除
ドローン・乗用管理機等

1回目 走り穂 7月下旬
スタークル液剤10 + モンカットフロアブル (ウンカ類、紋枯病、カメムシ類)

2回目 穂揃期 8月上旬
ラブサイドK2フロアブル (いもち病、カメムシ類)

次年度に向けて

秋耕

- ①稲ワラの腐熟促進
→ワラ・ヒコバエを腐植へ
→春先のワキ(ガス)の防止
- ②春耕の効率化
→作土深の確保
- ③漏生稲の発生防止
- ④カメムシ類が発生しづらい環境づくり

土づくり

牛ふん堆肥 1~2t
発酵ケイフン 150kg(秋施用)
(10aあたり)